

こぶし だより

働く障害者も
SSKW
働けるんだオレたちも



よく育ったな オレのトマト

CONTENTS

- ① トピックス2P ~ 3P
- ② 特集「就労に向けて～やればできる～」4P ~ 5P
- ③ 追悼・見形博美さん6P
- ④ サポートーズ7P
- ⑤ アドレス・編集後記8P

No. 332

2009
9

トピックス

Topics

「ぶしの会」それぞれの現場から

生産活動課

生産活動課と 中小企業診断士協会との連携

■生産活動課とは…

今年度から始まった、マトリックス構造による、こぶしの会の組織運営。授産活動については、就労支援部生産活動課が創設され、今まで各作業所ごとに取り組みれていた授産活動を横断的にとらえることとし、この部署が創設されました。法人としては、利用者一七〇人以上・職員八〇人以上を抱える大きくなり、このスケールメリットを生かした授産活動の展開をしていく方針です。

■専門家を導入することでのメリット

生産活動課の会議には中小企業診断士の方に参加していただいています。法人の監事である藤倉さんには毎回課の会議に出席をいただき、SWOT分析や数字から見る事業の分析、利用できる専門機関の紹介など、私たち福祉職から離れたところでの助言をいただいております。

■中小企業診断士協会との連携

今年度の最も大きな取り組みの一つに、中小企業診断士協会栃木支部パブリックビジネス研究会による、店舗診断があります。こぶしの会で行っている二店舗について、専門家に経営診断を行ってもらいました。診断に際しては、実際に店舗まで足を運んでいただき、立地条件・メニュー・客層・客席や障がいのある方が運営する店舗ということも加味しながらの経営診断をしていただきました。また、この診断報告書について、生産活動課の会議で報告していただき、売上アップの可能性・継続の抜本的見直しなど、ここでは紹介できないほどの多角的な面から報告をいただきました。



味もチェック、スタッフも緊張の1日

■目に見える成果を求めて

この不況の下、一般企業やプロである方のお店もダメージを受け、最悪の展開を迫られているところも多い昨今です。そのような中、福祉職員が店舗を切り盛りしていくには、もう限界を超えているのが現状です。これからは、今まで現場で蓄積した成果をいかして工賃倍増につなげていけるかが課題となります。それには、大きくなった法人スケールのしくみをつくることで連携ができた専門家の方々の力を織り交ぜていくことが、成果につながるであろうと思います。

障がいのある方の所得保障というにふさわしい仕事づくりに向けて、生産活動課の活躍はこれからです。

「なすなの会」ファイナルイベント

デビューク・エイセスコンサート

真岡市を基盤に活動を重ねてきた「なすなの会」が、今年度いっぱい活動を閉じることになりました。セルブ・みらい後援会「みらいの会」は実行委員会のメンバーとして、このコンサートに取り組んでいます。優れた歌唱力の男性4人のコーラスを、みなさま是非お聴きください！

日時 平成21年11月21日(土)
13時30分開場 14時開演
場所 真岡市二宮文化会館
料金 一律2000円 全席自由席
お問い合わせ 各事業所及びセルブ・みらいまで

第2けやき作業所

はじめの一步〜職場実習編〜

第2けやき作業所では、就労移行事業になり、もうすぐ三年を迎えます。

今回その中で、就職の一步を踏み出したTさんがごぶし作業所で給食業務の実習を七月二一日〜三一日の九日間行いました。なぜ作業所なのか？ 一般就職ではないのでは？と疑問に思われるところですが、今回の実習の目的はあくまで一般の職員としての立場で福祉施設の調理業務を行い、就職へのワンステップという試みです。

実際に実習が開始されると、慣れない環境に戸惑いがあり、緊張で動きがぎこちなかったり、慎重になり過ぎたりする場面が見られました。また、賑やかな利用者が多い環境に対応することも難しかったようです。



「対人面では、一週間目は慣れずにきつかった」「不安や寂しさがあり、第2けやきに戻りたいという気持ちがあった」と話すTさん。不安な気持ちを抱えてはいたが、

二週間目を迎えると、だんだんと任せられる仕事も増えて、技術面で学び、工夫しながら作業を行いました。コミュニケーションの課題では、自ら調理員に報告・質問をしたり利用者に声をかけたりする等、Tさんに心境の変化が見られるようになりました。

Tさん自身に実習を振り返ってもらいました。「最初は不安が大きかったが、調理技術や工夫、丁寧な盛り付けの仕方など勉強することができた。良い経験になった。」

ごぶし作業所の山本調理員からは、「指示通りできていた。職員とほぼ同じレベルで作業していた。はじめは細かい指示をしていたが、段々と指示を少なくしていても問題はなかった」と話されていました。

今後についてTさんは、「調理関係の仕事に進みたい。障がい者合同



面接会に参加する予定」と一般就職に向かって意欲的に活動しています。

不況と言われている昨今、障がい者雇用は困難な状況ですが、就労支援をさまざまな角度で企業にアプローチしていく必要があります。下半期にあたっては、一つ一つの実績を積み上げられるよう今回の実習だけにどまらず就労支援を様々な角度から取り組んでいきたいと思っています。

第31回ごぶし作業所
チャリティバザー

11月14日(土)午前9時30分〜午後3時
オリオンスクエア(宇都宮)にて

※バザーのほか、食品コーナーや作業所紹介パネルなどがあります。ぜひ出かけてみて。現在、当日のボランティアも募集中。お問い合わせは、ごぶし作業所後援会 ☎028(662)1911へ。

就労に向けて～やればできる～

特集



古橋さんのチャレンジ

今回の特集は、「古橋さんが就職した!?!」と彼が就職した時には、作業所の職員みんなが驚きを隠せなかったという、素晴らしいキャラクターと能力をもっている古橋さんに注目し、就職に至るまでの経緯、支援者の関わり、成功への歩みを振り返っていききたいと思います。

当時、古橋さんは第2けやき作業所所属で、自分の思いを上手く人に伝えることを苦手としていました。自分の思いが伝わらない時にはパニックを起こしてしまうこともあります。

一方、パソコンとのコミュニケーションは素晴らしく、得意としていました。夢中になっている時には、回りの音や声は、本人にはまったく聞こえていないのではないかと思うほどです。

そんな古橋さんの苦手なところも含めて、その能力に気づき「この人は就職できる!」と思ったのが「チャレンジセンター」主任の和田 洋さん。第2けやき作業所に古橋さんが通所していた当時は、和田さんも作業所の就労支援員でした。「彼が就職できるという思いはあったが、作業所内の理解、協力を得られたからこそ現実となった」とのこと。

和田さんより古橋さんの就職に向けて“どんなところを大切に支援したのか”興味深いお話を伺いました。

○良い部分に目を向ける

「作業所に通所していた頃の古橋さんは、何があってもまず休まずに作業所に通所することができていたんです。体調が優れない時でも、ちゃんと通所し、作業ができない時には静養室で休むことはありましたが、作業所を休むことはなかったんです。作業をやる集中力がなくなり、得意のパソコンに夢中になることはあっても、休まずに通うということではできていました。休まず継続して通所するということが、簡単そうでなかなかできないことだと思うんです」。

また、「古橋さんはパソコンが得意で頭の回転も速い。こちらが言ったことの意味も速い。そして何より“素直”。誤解しないでほしいのは素直でないで就職できないというわけではなく、古橋さんの場合はその点を良い部分として大切にすることが重要。ほかの人がなんだかんだ理由をつけてやりたがらないことも、古橋さんは決して『イヤだ』と言うことなく黙々と行ってくれました」。

《古橋さんの良い部分》①休まずに通所できる力 ②理解力がある ③素直な性格を生かせる場所があれば、コミュニケーションが少々不得意でも、仕事をすることは可能と考えました。

○古橋さんに合った働き方を考える(古橋さんの良い部分は仕事をする前提だと考えた)

古橋さんの作業所での様子から長時間の勤務は困難。また、周りの人に合わせる事が苦手なことから、人とのコミュニケーションの頻度が高い職場も難しいと考えました。

結果、短時間勤務で職種は仕分け作業など、黙々と一人で彼のペースでできる仕事が良いのではと考えました。

○企業実習により本人、支援者の不安を安心感に変えていく

まずは短期間での企業での実習を行いました。不安な点は、朝、出勤時間に合わせて起きることができるか?ということでした。実習にあたっては遅刻をしないことを目標に、まず行ったことは、朝6時に起きて私の携帯に電話を入れることを約束しました。ワン切りでよいので、朝起きたら必ず電話してもらうことにしました。そして、毎朝着信を確認したんです。6時30分までに着信がなかった場合には、こちらから電話を入れる。土日以外の毎日、半年間続けました。3日位連絡が来ないこともありましたが、その時には「なぜこれをしなければいけないのか」ということを本人と確認し、「今これをやる必要があるんだ」ということを本人と何度も確認しました。企業の実習は5ヶ所にのぼりました。

実習を行う中では、いきなり初日からやる気のない態度を見せることがあったり、集中力がなくなって欠伸や大きなため息をもらしたりすることもありました。あまりにも目に余るほどにひどい時には本人を呼び出し、会社の方がいる所でもあえて「何をやっているのか、今ここで頑張らなくては次はないですよ」ということを厳しく言ったこともありました。そして、何度も「目

的」と「目標」の確認を行いました。彼はそれをよく理解し、途中で諦めることなく続けることができました。その代わり実習中は、仕事が終わってからの時間は自由。あれこれと細かいことは一切言わず、束縛するようなことはしませんでした。今思うと、彼の場合、午後の自由な時間があるから午前中の実習が頑張れたのではないかと思います。

○実習から就職につながる

実習を経て、本人も「ここでやってみたい」との希望があった、真岡市の「真京精機」に就職が決まりました。「真京精機」は多くの障がい者の方の雇用経験もあり、会社、従業員の方々も古橋さんの特性(個性)をよく理解してくれました。当初は実習から就職まで1年の目標を立てスタートしたのですが、結果的には1年半かかってしまいました。



就職後も大切にしていることは、生活面を含めて本人を「管理」しようとしないこと。本人にいろいろなことを要求するとパニックを起こしてしまうからです。生活面でも部屋が多少汚くても、髭が伸びていても、会社が迷惑と感しない範囲であればOK。彼に対しては完璧を求めてはいけなと思ったんです。それから、本人の趣味、好きなことを大事にすること。古橋さんの場合は年に数回行われるコミックマーケットのイベントが生きる力になっています。このイベントに参加するために仕事も頑張っているのではないかと感じます。余暇や趣味を充実させるために働くという目的もあるんでしょうね。

○最後に……

古橋さんとは作業所の時から3年間一緒に働いてきたので、彼の特性や言い分を理解することができたし、気づくことができました。本人の主観を大切に支援の方法を考えること。中心に本人がいるということを忘れてはいけなと思います。支援者が常識論で彼をコントロールしようとしないこと。彼を世間一般の考え方に沿って就職させようとしていたら成功しなかったと思います。働く環境を彼に合わせるといった、発想の転換が必要だったと思います。就職したことによって、彼の生活も変化し、生活のリズムもつくられてきました。今後も成長し続けていくと思いますが、これからも、本人が自分でできる所は自分で、できないところは一緒に考えていきたいと思っています。

最後の最後に、古橋さんのコメントをお伝えします。

「作業所に通っていた時に30歳になったら就職したいと思っていた。就職活動中はハローワークに行ってもなかなか仕事が見つからなくて苦労した。実習も難しかった。今は就職して親、兄弟に認めてもらえるようになったことが嬉しい。今後は今よりもお給料が上がるように頑張っていきたい。」

＝まとめ＝

周りの職員からはどちらかという就職するのは難しいのではと考えられていた古橋さんが、1人の支援員との出会いによって就職を可能にすることができました。「就職するには、これこれができないとだめ」「こういう条件をクリアしなければだめ」というような、できない理由探しをせず、視点を変えて、良い部分、できるところに目を向け始めていくことで、就職への道を歩み出すことができたと思います。就職活動を始めるのとほぼ同じ時期からスタートしたアパートでの一人暮らしも、現在も継続しています。就業、生活面とも和田ワーカーが中心となり「古橋さん応援団」のネットワークをつくり、本人との適度な距離をとりながら支援を続けています。

古橋さんも何か困ったり、パニックを起こした時には必ず連絡できる支援者がいるということで、安心した生活が送れているのではないのでしょうか。

私も「応援団」の1人として生活面での支援を行っていますが、できないことをできるようにすることに目を向けてしまうと、本人との関係性を築けなくなってしまうし、本人が生活の中心ではなくなってしまうのではと思います。

「その人の人生は本人のもの」という言葉を肝に銘じて応援していきたいと考えています。

(チャレンジセンター 河原)

追悼 見形博美さん

(平成21年8月30日没)

共同住宅、「第2けやきホーム」で6年間暮らし、同時に「第2けやき作業所」でも仲間の中心に立って活躍された見形博美さんが、先頃、亡くなられました。

ありし日の見形さんを思いつつ故人を偲びたいと思います。

「自分は学生時代から、のちに会社勤めをしてきた時でも『提案魔』で、改善案やら新プロジェクト企画やら、アイデアが次々と浮かんでしまう。『また俺の提言、会社で通ったよ』ってお袋に電話すると、すごい喜んでくれる」



一年前、見形さんが話してくれたこと思い出します。

彼は「見形流・ダイエット」に挑戦したり、なかまの中で活発に動くことが健康の源だと、職場で

のラジオ体操の推進役、施設の草花の管理、パン販売は味覚調査、品質の安定、接客態度にいたるまで、とことんこだわっていました。もはや大学でトップランナーでいることもなく、いままら昇給、昇格には無縁だけど、と言いながら、「ただ、人のために」走ってきたのが見形さん。

このなかまのリーダーが、天国の広いオーデオのリスニングルームで（確か半地下の部屋がご希望でしたね）、今度こそ、ゆったりと過ごされていることを祈ります。

(矢板)

第2けやきホームの住人であった見形さん。その隣に住む大家さん、小池さん夫婦にも見形さんの思い出をうかがってみました。

ご主人／小池倉吉さん 奥さん／小池キミさん

聞き手／関谷

■自分は半年ほどのお付き合いだったのですが、ご夫妻は身近におられて、見形さんにはどんな印象をおもちですか。

夫「親切な、いい若い衆だったよ。ほんとに親切だ。ウチにお茶飲みに来るんだよね。店を片付けるのまで手伝ってくれる」

妻「よく気が付くんだよね」
夫「あの人は、パンの販売なんかにも熱心だったね。おれは、益子の西明寺って所でも植木売っているんだけど、どうにかそのあたりでパンを卸せないか、販売できる所はないかとか。もっと広めたいという気持ちだったんだろうね」

妻「うちにも、この店先に立って、誰が来たんだろうと思ったら見形さんで、『パン買ってくださいよ』ってね。見形さんじゃ、買わないわけにいかないものね」

夫「商売気のある人だった。真面目だったね」
■多趣味な方でしたよね。盆栽に、音楽も。熱帯魚の水槽にも最初は驚きましたよね。そう、衣類から小物まで、いい品を見つけて、いい買い物をして、必ずみんなに見せていましたね。「どうだ、安いだろう」って。報告するっていうのも、見形さんの楽しみの一つだった気がしますね。



夫「盆栽店では、もう評判になっただけね。」

ほかの店でも『まける、まける』が来たってね。矢板の方まで行くんだよ。鹿沼あたりも。植木に関しちゃ、問屋のことまで知識があるから。昔、そういう所で働いたことがあるらしいね。

今は盆栽も小さいものだったから500円ぐらいだから。そういうものを買って来て……。今年、芽が出たね。普通の人のがんばっても芽は出ないよ。上手だよ。水のやり方、しまい方も知ってるんだよね。冬は発砲スチロールでちゃんとしておかないとね。今年は、ついに花が咲いた。腕がいいんだよ。普通の人とは植木も買

い方がちがうね。何でもわかってるから」
妻「でも、調子の悪い時は、四、五日寝ていたな。『無理しちゃだめだよ』って声かけて。私らの子供みたいな。病氣したら誰も見てくれないんだから、無理しちゃだめだよって。『わかりました』って言うの。気持ちいい人だったね。」

私ら、朝早く畑に出ていると、後ろから見形さんが、草むしりしながらついてくるのよ。同じように早起きして。『見形さん、だめだよ。私ら、給料払えないから』って冗談で言うんだけど、見形さん、いらぬですよって、大真面目に答えていたね」

■見形さんは、周囲の人のために、ひとりで奮闘しているといった人でしたが、こうしたご近所に支えられて、可愛がっていただいて、ご夫婦のことを、本当のお父さん、お母さんと思っていたのかもしれないですね。ふらっと、店先に、お茶飲みに現れそうですね。

ありがとうございます。

【お詫びと訂正】前号10頁の人物写真の中に関連のない写真が混入してしまいました。関係者の方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

編集部

こぶしSupporters

サポーターズ

後援会 保護者会・ボランティアのページ

～ こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします ～

～ 共に働く ～

今回はハイコーパックに勤務するKさんの職場定着にお力をいただいた「向田俊彦さん」を紹介します。「自分は特別なことはなにもしていないよ」との謙虚な方でしたが、Kさんが同じ職場で8年も続けて勤務できていることの一つに会社、そして一緒に働く方のサポートが力になっていると思います。



○最初に障がいのある方の面倒をみてほしいと言われてどうでしたか？

今から7～8年前になるが、まだ今のように障がい者の方も働いてなくて、健常者でも仕事を教えるのが大変なのに、なんで障がい者？という思いがありました。仕事はできない、教えても無理だろうと思いました。

○一緒に仕事を始めてからはどうですか？

こぶしの会の白井さんが最初頻繁に来てくれたので助かりました。本人にはいろんなことをやってもらいました。できること、できないことを判断してできることを徹底的にやってもらいました。Kさんも頑張ってくれたよ。忙しくてちゃんと話を聞いてあげることができなくて、怒っちゃったこともあったなあ。ブツブツ文句は言っていたようだったけど、あんまり相手にしなかったです。しばらくすると本人から何事もなかったように声掛けしてくれたし(笑)、特別なことはなにもしていないよ。

○印象に残っている出来事はありますか？

入社して2～3週間たった頃だったが、職場で掃除中に「てんかん」の発作を起こして倒れたことがあったんです。すぐ隣にいたので、とっさに倒れる彼を受けとめました。ビックリしましたよ。でも、発作はその時が最初で最後で、今まで8年間ないですね。

○また発作が起こったらと不安にはならなかったですか？

それがならなかったんですね。俺達がガキの頃には学校で倒れてる子がいましたからね。ただ、機械と機械の間には入っちゃいけないとは厳しく本人に伝えていきます。もしも倒れて頭を打ったりしたら大変ですからね。(※会社の方にも「てんかん」について知っていただくために、けやき作業所から本、ビデオ等を通して対応をお伝えしていたそうです)

○特に大変と思ったことや困ったということはありませんか？

言葉が上手く伝わらなかったのが、仕事を教える時がちょっと大変だったですね。まず自分がやって見せて→本人にやってもらう→覚える の繰り返しでした。今は戦力になっているから、人のやり方を見てゴミの分別もできるようになってきましたよ最近は。昼食も一緒にずーっと食べてますけど…いまだに仕事以外の話は何しゃべっているのかわからないです。(笑)でも、一緒にいてもぜんぜん苦にならないですよ。

○一般就労を目指している方にメッセージはありますか？

まずは休まないで出勤すること。できることを頑張ること。やる気があれば周りが助けるから、途中で諦めないで頑張してほしいです。

向田さん本当にありがとうございました。

最後に……

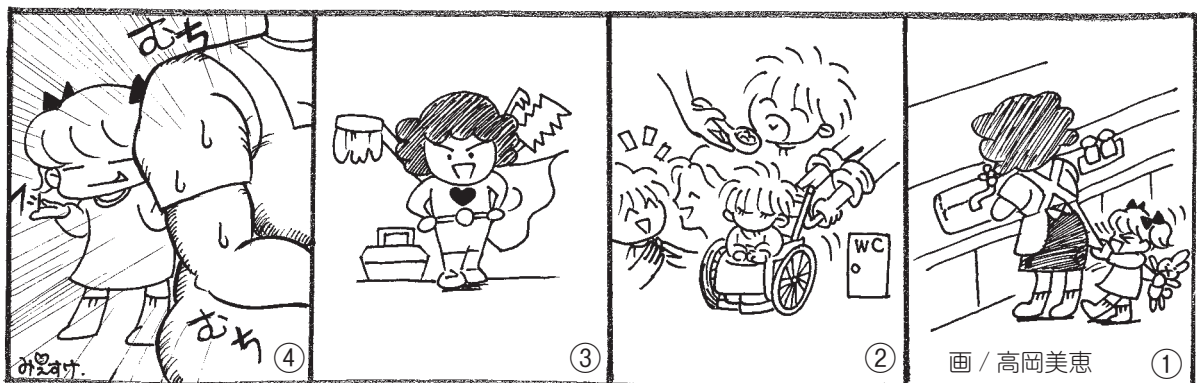
Kさん自身の頑張りもありますが、周りの方々がKさんの力を信じて諦めずに支援していただけたこと、本人にも応援してもらっているという安心感が伝わっていったことが今まで長く勤務できていることにつながっているんだと思いました。今後も応援よろしくをお願いします。



社会福祉法人
ほぶしの会

- こぶし作業所 ☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
 ・知的障害者通所授産施設
 ・日中一時支援事業
 TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912
 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
 - こぶし作業所生活支援センター ☎ 321-3235 栃木県宇都宮市鎌山町字東原 146-7
 ・在宅障害(児)者の相談・支援
 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (662) 1912
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
 - こぶしのときわ荘 ☎ 321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野 2867-3
 ・知的障害者ケアホーム
 TEL 028 (667) 5531
 - くるみ ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 ・知的障害者ケアホーム
 TEL 028 (664) 0414
 - けやき作業所 ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2244
 ・知的障害者通所授産施設
 ・日中一時支援事業
 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
 - 生活介護事業 けやき作業所
 ・生活介護事業
 - 第2けやき作業所 ☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
 ・就労移行支援事業
 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
 ・就労継続支援B型事業
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
 - 県東ライフサポートセンター ☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田 1532
 「ほっとCHA」
 TEL 028 (687) 0311
 ・地域活動支援センター
 - 県東ライフサポートセンター「真岡」 ☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 3-9-5
 ・地域活動支援センター
 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
 - すずらんの家 ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 2305-2
 ・知的障害者グループホーム
 TEL 028 (677) 4430
 - けやきハイツ ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 178
 ・知的障害者ケアホーム
 TEL 028 (677) 2876
 - 第2けやきホーム ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 1204-4
 ・精神障害者グループホーム
 TEL 028 (677) 0776
 - コーポ 峰 ☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井 775-2
 ・知的障害者ケアホーム
 - セルプ・みらい ☎ 321-4363 栃木県真岡市亀山 1043-23
 ・知的障害者通所授産施設
 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
 - ぼてっと ☎ 321-4364 栃木県真岡市長田 1-12-5
 ・知的障害者グループホーム
 - 芳賀地区障害児者相談支援センター ☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内
 ・在宅障害(児)者の相談・支援
 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
 - 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ☎ 321-4305 栃木県真岡市荒町 111-1
 ・障害者の就業相談・支援
 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
-
- 法人事務局(総務・企画部) ☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401
 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128
 E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください (閲覧時間 8:30 ~ 17:00)



編集後記

先日、小学生の娘に、「お母さんのお仕事ってどういう仕事？」と聞かれ、そういえば障がい者の施設に勤務していることは教えたけど、仕事の内容はまだちゃんと話したことがなかったなと思い、「障がいのある方を支援するんだよ」と答えた。「え〜。どういうこと？トイレの付き添いしたり、車椅子を押したりするの？」「そういうことも時々するよ。」「よくお弁当作ったりしているみたいだけど？」「そういうのも仕事なの。」「？？？」。「話を聞いたり、危ないことがないように見守りしたり、どうすればみんながスムーズに仕事を進められるか、考えたりするんだ。」「なんか、何でも屋さんみたい」の会話に、何でも屋さんかあ、微妙に的を得てるような…。

ポキャブラリーの乏しい私が、さらにポキャブラリーの乏しい子どもに説明するとなるとこうなる。ただでさえ支援員の仕事って、一言で説明できるような簡単なものじゃないし…と考えていると、娘が、「でもさ、こないだ『友遊はが』で、車椅子のおじさんたちとしゃべってるとき楽しそうだったけどね、お母さん。Nさんたちのことだ。」「そうだね。確かに楽しいと思う。利用者の皆さんといるとムカつくこともあるし、落ち込むこともある。でも、屈託ない顔で話しかけられたり、個性的な行動で意表をついてくれたり、確かに面白いと思う。ものの捉え方違ってずいぶん違う。私なんか気が付かないことを、全然違う方向から気付かせてくれる。そこで、「お母さんみたいな仕事したい？」と娘に聞いてみた。娘は、「やだー、お母さんみたいに太りたくないもん」…!!

いや、べつに施設に勤めてるから太ったわけじゃないんだけど… 軽くショックを受けた私です…。(星野)

編集委員 矢板 勉 松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号一五〇〇三三
 東京都世田谷区砧六―二六―二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
 定価五〇円